

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 令和4年度 定期総会議事録

1. 日 時：令和4年6月12日(日) 13:30~16:00

2. 会 場：さくらであい館 学習室「木津」

3. 出席者数：33名(本人出席11名、委任状22名)

4. 議 案

第1号議案 令和3年度事業報告

第2号議案 令和3年度決算報告

第3号議案 令和4年度事業計画(案)

第4号議案 令和4年度予算計画(案)

第5号議案 令和4年度役員(案)

議事に先立ち、代表幹事の澤井健二氏が挨拶を行った。その後、司会が議長の推薦を募ったところ、山村氏の推薦があり、出席者に承認を諮ったところ全員一致で承認され、山村氏が議長に就任し、議長により書記に石中氏が指名された。

5. 議案審議

議長により第1号議案から第5号議案まで下記の通り審議が進められ、一部加筆部分はあったが承認され、14時50分総会の閉会を宣言した。

議案	議事内容及び採決結果
第1号議案	2021年度事業報告書を石中幹事が説明した後、案に対し下記の意見が出されたが、原案通り承認された。
第2号議案	2021年度決算報告を丸井事務局長が説明し、これに対し質問意見等は出ず、原案通り承認された
第3号議案	2022年度事業計画(案)を前川幹事が説明した。案に対し、下記の意見が出されたが、原案通り承認された。
第4号議案	2022年度予算計画(案)を丸井事務局長が説明し、これに対し質問意見等は出ず、原案通り承認された
第5号議案	2022年度役員(案)について日下幹事が候補者を紹介し、その後候補者一人一人がひと言述べ。その後承認を諮ったところ全員異議無く承認された。

<出された主な意見等>

第1号議案について

- ・さくらであい館情報コーナーは毎月開設してきたが、足を止め話を聞いてくれる人はほとんどいなかった。今年度は何とか足を止めてもらえるような、またたくさんの人に来てもらえるような状況を作りたい。⇒ 事業計画の中で話し合う

第3号議案について

- ・1号議案で出された「さくらであい館」の取り組みについて、次のような提案があった。
 - ①「声をかけづらい」「何を話していいかわからない」といった状況なのは。
 - ②具体的に「〇〇についてお答えします」「～について何でもご相談ください」など、

情報コーナーが何なのかがわかるような掲示をしてはどうか。

③モニターに流域や川に関わることなどの映像やクイズを映してはどうか。

④事業計画にもあるように、今年度は一つの試みとして「座談会」を年3回行うこととした。

・情報コーナーの取り組み以外に出された意見

①子供の水難事故を起こさないようにするために、BY ネットで地域限定版の冊子を作ってはどうか

⇒ 冊子は国交省でも他の団体でも作られている

⇒ 作られてはいるが、十分活用されているとは言えない状況。それが問題。

⇒ 河川レンジャーの役割も大きい

⇒ 「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会 連絡調整会議」で、訴えていくべき

②子どもたちは“冊子”は見ない(読まない)ので、クリアファイル等に仕立てればどうか

③今年度事業の「水辺の生き物探検隊」で、子供向けの水難事故防止講座を実施する

④前川幹事から、「水難事故防止講座」を事前募集という形はとらず、7月に寝屋川点野あたりでやってみるとの申し出があり、お願いすることとなった。

6. 総会イベント「座談会 川に親しむ」

議案審議終了後、鈴木副代表幹事を座長として総会イベント「座談会 川に親しむ」を行った。フリートークに先立ち、河合副代表幹事から話題提供として「川に親しむ」「川に親しめる」条件等について、京都鴨川の様子と大阪の干潟や淀川の護岸の様子などを比較しながら10分程度のPPを使い話していただいた。

その後フリートークとなり、色々な意見が出された。

(出された主な意見)

- ・川遊びを知らない大人が多い
- ・遊びたい、入りたいと思える川があれば子供たちはほっておいても川遊びをする
- ・入っていける川、遊べる川が身近にあまりないのでは、
- ・今の子どもたちは、大人も含め、どんなところが危ないか、どんな時は川に近づいてはいけないかを知らない。
- ・「教育」が必要。

上記の他、多くの意見で大いに盛り上がり16時に終了した。